【学会レヴュー】

第18回世界心身医学会に参加して

松　田　英　子

2005年8月21日から26日まで神戸市にて開催された，第18回世界心身医学会に参加した。21日の開会式には天皇，皇后両陛下がご出席され，「会議が実り多い成果を挙げ，世界の医学の進歩と人々の幸せに貢献することを願います」と述べられた。まさに開催地にて起こった阪神大震災で，被災された多くの人々が現在に至っても心身の後遺症に苦しんでおられる事実があり，神戸市による強力な後援を受けて開催された。

本国際会議のメインテーマは「体と心を科学する ── 日本から世界へ向けて」であり，心身症という心理的ストレスが身体症状となって現れる疾患について，様々な角度から検討された。例えば，怒りや不安，抑うつといった心身症発症の引き金となる基本的情動の生理心理学的メカニズムの基礎研究から，心身症の治療における薬理学的作用の機序，本態性高血圧，心臓疾患，胃潰瘍・十二指腸潰瘍，過敏性大腸炎などの心身症の各論に関して，心身医学の研究者，臨床医，臨床心理学者など約2,600人が参加・討論し，盛況であった。大会の基調を示したシンポジウムには，阪神大震災やスマトラ沖大地震による被災者のストレスを取り上げたものもあった。

個人としては，日本カウンセリング学会の共同研究者たちとシンポジウム The Role of Evidence-based Counseling in Coping with Psychosomatic Stress を企画し，演題 Assertion training in Coping with Mental Disorders with Psychosomatic Disease を発表することができ，国内外の研究者からコメントを頂いた。心身症における心理学アプローチの役割の重要性，精神障害と複合している場合には特にそうであるが，これを改めて確認するとともに，感覚的な心身の相互作用の捕らえ方ではなく，具体的にメカニズムを明らかにし，かつ治療効果の実証性を強く求められる時代の流れを実感した。